

議事録（要点筆記）

会議名	令和4年度 野村胡堂・あらえびす記念館運営審議会					
開催日時	令和4年6月30日（木）午後1時40分～午後3時50分					
開催場所	野村胡堂・あらえびす記念館ホール					
審議会次第	<p>（辞令書交付）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 挨拶（副町長）</li> <li>3 職員紹介</li> <li>4 報告事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>（1） 令和3年度事業報告について</li> </ol> </li> <li>5 審議事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>（1） 令和4年度事業計画について</li> <li>（2） 野村胡堂・あらえびす記念館の目指す方向について</li> <li>（3） その他</li> </ol> </li> <li>6 その他</li> <li>7 閉会</li> </ol> <p>企画展見学、レコードとデジタル化音源聴き比べ</p>					
運営委員出欠状況	会長	江藤 <small>ひでいち</small> 秀一	出	委員	鈴木 <small>ふみひこ</small> 文彦	出
	委員	岡崎 <small>まさのぶ</small> 正信	欠	委員	住川 <small>みどり</small> 碧	欠
	委員	杉本 <small>つとむ</small> 勉	出	委員	山際 <small>まさゆき</small> 正之	出
行政	町長 熊谷 泉			副町長 藤原 博視		
	教育長 侘美 淳			教育部長 八重嶋 靖		
	生涯学習課長 須川 範一			生涯学習課副課長 高橋 哲也		
	歴史文化係長 岩館 岳					
指定管理者 （記念館協力会）	野村胡堂・あらえびす記念館協力会 理事長 野村 晴一			野村胡堂・あらえびす記念館 館長 岩崎 雅司		
	野村胡堂・あらえびす記念館協力会 常務理事（記念館事務局長）長澤 成喜					

進行（生涯学習課長）

1 開会

2 挨拶（町長）

さまざまなことがコロナ禍前に戻りつつある。文化についても再起動しなければならない時期。記念館の運営については入館者が減っている状況だが振興を図っていききたい。忌憚のない意見をお願いしたい。

3 委員・職員紹介

4 報告事項

<事務局> 「令和3年度事業報告について」を説明

<委員> 「INAZO サミット」とはどのようなものか。

<委員> 去年まで関わったので補足説明する。10月には新渡戸稲造の命日となっており、10月中旬の土日に開催している。今回は盛岡グランドホテルでの開催だった。新渡戸稲造ゆかりの先人たちで岩手出身ということで新渡戸と胡堂の関わりや記念館の概要を15分ほど話してきた。『新渡戸稲造の世界』という本に掲載される予定。花巻の新渡戸稲造記念館館長、盛岡の先人記念館館長も説明をした。

<委員> 協力会事業の「あらえびす SP レコードコンサート」は読売新聞と共催とあるが、共催になると何か支援があるのか。

<教育長> 胡堂と報知新聞（後に読売新聞と合併）の縁で、読売新聞盛岡支局から運営費に補助を頂いている。「あらえびすゆかりのコンサートを開いてほしい」との要請があり定期コンサート以外の枠として年1回レコードコンサートを開いている。胡堂のこと、あらえびすのこと、SPレコードのことを中心にビギナーが楽しめる内容を提供した。

<委員> 読売新聞にも記事として掲載されるのか。

<記念館事務局> 読売新聞共催なので新聞紙面に開催の案内を無料で掲載してもらっている。

<委員> 効果はあったか。

<記念館事務局> 読売新聞を購読されている方からお問合せや参加申し込みをいただいた。

<委員> 「審議会の提言をもとに実施した事業」として感想文コンクールが挙げられているが、音楽部門の令和2年度116通と非常に多い応募があったのは何か特別な理由か。

<教育長> 東京の私立の中高一貫校の音楽の教員が課題として位置づけ応募してくれたと承知している。ネット等で全国的に宣伝しているので、これから広まっていけばと思っている。資料に昨年度の代表的な作品を掲載しているのでご覧頂きたい。「胡堂」と「あらえびす」どちらも顕彰していく事業として進めていきたい。

<委員> すばらしい企画だと思う。文章も選んだ題材も非常にいい。読むだけでなく音楽の感想もやっているというのはいいい感性を育む機会となる。応募頂いた私立の学校ともご縁をつないでいくのもよいと思う。文藝春秋の「オール讀物」という雑誌で高校生が選ぶ直木賞という企画を続けている。100校以上の高校が候補作の中から何冊か選んで高校生が話し合っって高校生直木賞を決めるという企画。結構根付いている。胡堂あらえびす大賞も小学生中学生にとって、いい企画と感じる。多くの学校からの参加が増えるとよいと思う。

<教育長> ご要望に添って全国展開していきたい。

<委員> たまたま私立学校の先生が見つけて推薦したのか。

<教育長> 元々読書感想文コンクールはやっており、優秀賞は「胡堂賞」としていた。先進事例として（公財）音楽鑑賞振興会という団体で音楽の鑑賞文コンクールをやっていた。そのアイデアを参考に「あらえびす賞」として音楽を聴いて文章に表す機会を設けたもの。町内及び近隣の学校には広報している。小中学校の音楽の授業の改善、質の向上にも資すると考えている。全国展開しながら続けていきたいと考えている。

<委員> 勤務校の附属小学校でオーケストラをやっている。学年が上がるに従って楽器が増え5、6年生になるとフルオーケストラになる。全国の私立小学校では特色ある音楽教育を行っているところも多いので、これらの学校に案内するのもよいと思う。いろんな音楽を聴きながら教育の中に取り入れていっていただければありがたい。

<教育長> 進めてまいりたい。

#### 5 審議事項

<事務局> (「令和4年度事業計画について」を説明)

<委員> 「寄贈品の保管と活用に努める」とあるが、これはレコードや図書のほか。具体的な活用と公開についてはどのように行って今後どのように進める方針か。

<事務局> レコードの目録をwebサイトに掲載し多くの方に見て頂いている状況。次の課題としては目録を使ってどういったかたちで資料に接して頂くか、聞いて頂くかというところ。デジタル化した音源については部分的にwebサイトに掲載している。広く聞いて頂き、本物を聞いて頂くために記念館に来館してもらうという誘導を行いたい。

<教育長> 補足する。レコードの分析、アカデミックな研究に資するコーナーが必要と考えている。音楽、文献について単なる収集にとどまらず学問的に資する体制を構築していきたい。収集と保存と研究を進めたい。設備の更新増強による鑑賞環境の向上などを進め、SP、LP、デジタルを併用しながら音楽文化に貢献していきたい。

また、町内の小中学生へのアプローチは施設見学にとどまっていた。社会科、音楽、国語、調べ学習、道徳など9年間の教育の中で何度も訪れ学ぶことができるプログラムを作り記念館を活用していきたい。

<委員> 先ほどHPで統一化させていくという話があった。2年前、HPを開くと音楽が流れるというのを提案した。月替わり、あるいは週替わりで数分だけいいところだけを流す。それがとても気に入って本物を聞きに来てもらうという音楽とともに紫波町の宣伝をするという仕組みづくりはどうか。とにかくHPに来てもらうことが大事。

<事務局> デジタル化にすればできることが広がる。映像と組み合わせることができる。それを進めていきたい、デジタルの音と映像をスライドで合わせてYouTubeも使っていきたい。

<委員> 若い人はYouTubeを見ているようなので効果的だと思う。若い人たちに音楽を楽しむ入り口になる。YouTubeからHPに飛ぶ仕組みづくりがいいと思う。

<委員> 東京では文化放送というラジオ局がある。そこで紫波町が話題になっていた。田んぼや原野があり安い値段で買えると。移住によいと。ワインやおいしいお酒、ブドウが取れるという宣伝があった。少し前にもオガールの話もあった。そこから記念館のHPを見たり、紫波町につながっていけばいいと思う。

<委員> いろんなところでテレビ、ラジオで紫波町は取り上げられている。小学校閉校や、県内で数少ない人口の減っていない町、空き家対策、CO2削減に取り組まれているとかで注目されているので、こういう文化的なことでも注目されていけるようになりたい。

<委員> ワインはどういう状況なのか

<副町長> 年間12万本、コンクールで賞もとるようになった。飲んで満足できる味のレベル。県内でもワイナリーが増え、エーデル、葛巻、その次が紫波。

<委員> 東京の歌舞伎座の向かいの銀河プラザにも置いているのか?

<副町長> 置いている。ワインは去年、一昨年は生産量より販売量が伸びて在庫不足だった。

<委員> これからは体験型、さわってみる作ってみることが重要。ワイナリーでもやっている。小さい頃から自由に意見を述べさせる総合的な学習の時間を体験型の記念館としてやっていくのがいい。

<教育長> 端末を持ってきて子供たちに自由に発言させてもいい。

<事務局> (「野村胡堂・あらえびす記念館の向かう方向性について」を説明)

<委員> 学生さんたちの合宿の話。オガールインができたので移動手段があればなおいい。全国的に音楽の大学の人気下がっている。定員50名に20名も集まらない。武蔵野音大も定員が満たない。音楽離れしてるかっていうわけではなく、種類が少し変わってきている。クラシックだけでなくジャズなど色々な種類の音楽のコンサートも必要。胡堂の小説家としての展示も見せられれば良い。

<委員> 記念館は外でコンサートできるのもよい。イギリスはよく野外でコンサートしている。ここで映画会をやっていたが子供たちが外で演奏してもよいと思う。

<委員> 情報提供。5年間勤務したが記念館の資源を求めて研究者が来る。リベラルアーツとしての野村胡堂の業績としての資源が欲しいと。多方面のアプローチの切り口として利用して欲しい。退任した後に盛岡の歴史文化課の運営審議委員をやっているが、定期刊行物のデジタル化をしている。そういった可能性もどうか。

<委員> 日本全国を対象に、全国の胡堂ファンに対して記念館をPRする。

胡堂の銭形平次であればTVでも頻度が多くファンも多い。それに対してクラシックはどうかと

いと NHK の 1 週間 168 時間の番組の中で 2 時間だけ、しかも毎週ではない。世間のクラシック離れ。減りもしないが増えもしない。「モーストリークラシック」という雑誌の中で日本の小さいホールの紹介記事があるがコンサート開催が多いホールはよく取り上げられている。こういうところに取り上げてもらえるように出版社へ働きかけなどもっとした方がよい。学校の先生に広く読まれている雑誌に紹介されることは意義がある。それともうひとつ。企画展で奥の方になかなか人がいかないという話。事務室があつてトイレがあつてその先は行きにくい。

30 年前の記念館の設計構想のときから、研究者みたいな人が来てゆっくり資料を見ながら時間をかけて調べたいという人のスペースという話が合った。一般の人が企画展をするようなアイデアがなかった。今いるスペースと事務室が逆の方が使い勝手が良かったと思う。

<教育長> 全国と町内外の整合性をとって、全国展開など少しずつ頑張っていきたい。作文は当初はクラシックが中心だったが中学生がロックや J-POP に興味があるので、まずはそれをスタートにすればよいかと。おやじバンドができるようなスタジオが 2 つある。実現に向かって取り組みたい。

<委員> ジャズをもっと取り入れたい。バスセンターに穂吉敏子ミュージアムも入る。そんな風土があるわけだから広く考えて積極的に取り組んでほしい。オガールの 2 階のスタジオも評判がいい。活用の仕方を考えていただければいいと思う。

<教育長> 穂吉さんはここで演奏したこともある。菅原さん、ジョニーさんは理事でもあった。クラシックの連動、音楽の連動というコンセプトで展開していきたい。

<委員> 音楽とワインの町。町を挙げて一緒に。ひとつひとつがバラバラより、力を結集していくのが大事。

イギリスではクラシック FM という番組があり朝から晩まで 24 時間番組をやっている。ネットで聞けるので是非聞いてほしい。難しいものではなくて身近な映画音楽とかわかりやすいものが流れているのでバックミュージックとして聞いてほしい。

もうひとつ。ZOOM を使ってコンサートを配信出来たら全国的に存在を知らせることができるのではと思う。

8P の野村胡堂に影響を受けた人々との交流とあるが、銭形平次を学生が誰も知らない。

若い人は知らないので、銭形平次＝野村胡堂ではなく、野村胡堂がどういう作家だったかということを中心で話せば広がりが違うと思う。

## 6 その他

(特になし)

## 7 閉会 (教育部長)